

## さいたまの芝塚さん 29日に卒寿記念コンサート

「歌うことが私の青春」と話す男性の卒寿記念コンサートが、29日にさいたま市プラザノースである。来年で創立60周年を迎える埼玉合唱団の仲間たちが、団の創立記念事業にあわせて感謝の気持ちを込めて企画した。

## 90歳になっても「歌うことが青春」

今年1月に90歳になったのは、さいたま市北区在住の芝塚茂さん。栃木県矢板市に生まれ、戦時中は旧制大田原中学校(現・栃木県立大田原高校)の生徒だったが、勤労動員で川崎市で鋳物や旋盤作業などに携わった。1945年3月10日の東京大空襲は作業場の寮から見守った。終戦後は殺

虫剤の会社に勤め、45歳のころ、大宮市(現・さいたま市北区)に引っ越した。

埼玉合唱団との出会いは、長女が目留めた合唱団員公募のチラシがきっかけだった。「お父さん、これやんなさいよ。練習に連れていってくれた。ちょうど今年を迎えたころだった。「今まで聞いたことのない素晴らしいハーモニーに心が奪われた」と振り返る。

週2回の練習には無断欠席、遅刻をせずに通い続けた。「好きだったんでしょうね。それと素晴らしい仲間たちが支えてくれた。そうでなければ続けることができなかった」と笑う。

団に慣れるまで半年間、芝塚さんをサポートしてくれた林和恵さん(61)は「多くのレコードやCDを買っ

## 感謝を込め 埼玉合唱団の仲間が企画

ど勉強熱心。歌によってイタリア語、ドイツ語で挑戦しようとする意欲には頭が下がります」。団長の北爪隆夫さん(74)も「人間性、音楽に対する姿勢、すべてが団員のプラスになることばかり。感謝の意味を込めて記念コンサートを企画した」と話す。

合唱団では低音のバスを担当する芝塚さん。団の練習のほかに月1回、個人レッスンのために東京・高田馬場に通う。最近足腰が弱ってきたという。「70歳の人たちを見ると若くてうらやましいと思う。でも私も負けませんよ」と張り切っている。

コンサートでは「愛の喜び」「城ヶ島の雨」など8曲を歌う。休憩を入れて2時間、団員に見守られながらステージに立つ。ひ孫も駆けつけてくれる予定だ。

午後1時半開場。入場無料だが新型コロナウイルス対策で整理券を配る。問い合わせは合唱団事務局(048・883・1634、平日午後1〜5時)へ。



練習する芝塚さん。ドイツ語で「愛の喜び」など8曲を歌う予定だ。さいたま市北区盆裁町